

一般社団法人日本動物実験代替法学会

活動紹介及びご入会のお誘い

日本動物実験代替法学会は、1987年に故 菅原 努先生(京都大学名誉教授)が発起人となった「日本動物実験代替法研究会」に端を発し、1989年に「日本動物実験代替法学会」として正式に発足致しました。それ以来、我が国における動物愛護への関心の高まりとともに、本学会は3Rs(動物数の削減(Reduction)、苦痛の軽減(Refinement)、非動物実験への置換(Replacement))に関する学術研究や社会認知のための中心的役割を担っており、現在では日本学術会議の登録団体にもなっています。また、本学会は、社会的な信頼性を高めるために、2022年1月より、法人組織として一般社団法人日本動物実験代替法学会になりました。また、適格請求書等保存方式(インボイス制度)が開始されるのにあわせて、適格請求書発行事業者の登録を行いました(2023年3月)。

本学会は、実験動物を使用している安全性試験の分野を始めとして、教育を含め社会のあらゆる分野において、3Rs原則に則った動物実験の実施や代替法の導入が行われるべきであると考えています。3Rs原則のうち、動物数の削減(Reduction)や苦痛の軽減(Refinement)に関しては、獣医師の先生方や動物福祉に関わる先生方との連携が大変重要です。一方、非動物試験による動物実験の置換(Replacement)の実現のためには、代替すべき生体反応に関する基礎研究からその科学的妥当性評価にいたるまで様々な分野の専門的知見を融合して開発を進め、その科学的妥当性を慎重に確かめる必要があります。このReplacementの実現には、さまざまな研究分野で活躍されている産官学の研究者の連携が絶対に必要です。

本学会は上記のように幅広い研究分野を対象としており、学術大会では、他学会との連携企画も含め、最新の基礎科学の応用から社会的課題への対応まで幅広いシンポジウムを企画してきました。この他、最新の国際動向や代替法技術について、講演会や技術講習会を開催しております。また、英文学術誌 AATEX (Alternatives to Animal Testing and Experimentation) の発行やニュースレター・メールニュース等を通じて、我が国研究者の成果を広く世界に発信するとともに、最新の情報を会員の皆様に届けてきました。さらに企業さまや業界団体さまのご支援のもとに会員への学術研究助成を行ってきました。

近年、代替法開発や実施においては、国際的な協調が重視されております。本学会はアジア圏や欧米の代替法研究団体とも密接な関連を構築し、2007年には第6回国際動物実験代替法会議(WC6)をアジア圏で初めて東京で開催しました。その後、2016年にはアジアの代替法研究者の連携を目的に、第1回 Asian Congress を唐津で開催しました。その後、第2回を2018年に広州(中国)で、第3回を2022年12月に済州島(韓国)で開催しており、アジアでの代替法研究者の連携は着実に進展しております。

一般社団法人日本動物実験代替法学会は、代替法研究の更なる発展と3Rs原則の普及に関して、わが国ばかりでなく海外においても広く貢献して行きたいと考えております。このためには様々な研究分野を専門とされる研究者の皆様の参加が必要です。これを機会に是非、日本動物実験代替法学会へのご参加をお願い申し上げます。また、学生会員の方は、入会金(2,000円)のみで、年会費は無料ですので、こちらもご入会をお待ち致しております。

●詳細な最新情報については HP (<https://jsaae.or.jp/>) をご覧下さい。

近年の主な活動紹介

●国内大会(2012 年以降)

毎年 11～12 月に国内大会を開催しています。口頭発表はシンポジウムやワークショップのみとし、一般発表はポスター(フラッシュ口演を含む)としてより親密な議論の形成に努めています。ポスターセッションは毎回熱気に包まれています。また、関連他学会との合同シンポジウムを積極的に実施するとともに、一般の方々を対象とした市民公開シンポジウムもプログラムに積極的に盛り込んでいます。

- ・第 36 回大会: 2023 年 11 月 27～29 日、千葉大学(千葉)
テーマ:「動物実験代替法の終わりのなき挑戦」
- ・第 35 回大会: 2022 年 11 月 18～20 日、静岡県立大学(静岡)
テーマ:「協働と協調で築く新たな時代の 3Rs」
- ・第 34 回大会: 2021 年 11 月 11～13 日、沖縄科学技術大学院大学(沖縄、一部オンデマンド配信)
テーマ:「3Rs に立脚したサイエンス、サイエンスを支える 3Rs」
- ・第 33 回大会: 2020 年 11 月 12～13 日、オンライン大会
テーマ:「COVID-19 を超えて 3Rs の未来へ」
- ・第 32 回大会: 2019 年 11 月 20～22 日、産業技術総合研究所(つくば)
テーマ:「業界を超えた普遍的技術としての動物実験代替法を目指して」
- ・第 31 回大会: 2018 年 11 月 23～25 日、崇城大学(熊本)
テーマ:「動物実験代替法学の体系化と人財育成」
- ・第 30 回大会: 2017 年 11 月 23～25 日、大田区産業プラザ(東京)
テーマ:「レギュラトリーサイエンスと 3Rs」
- ・第 29 回大会: 2016 年 11 月 16～18 日、九州大学(福岡)、Asian Congress 2016 と共同開催
テーマ:「分子-細胞-個体の視点からの代替法」
- ・第 28 回大会: 2015 年 12 月 10～12 日、ワークピア横浜(横浜)
テーマ:「考・動物実験代替試験法の今とこれから」
- ・第 27 回大会: 2014 年 12 月 5～7 日、横浜国立大学(横浜)
テーマ:「過去からの脱却と未来に向けたキックオフ」
- ・第 26 回大会: 2013 年 12 月 19～21 日、京都テルサ(京都)
テーマ:「動物実験代替の基礎科学と新展開」
- ・第 25 回大会: 2012 年 12 月 7～8 日、慶応大学薬学部(東京)
テーマ:「動物実験代替法のサイエンス : 機構に基づいた予測」

●講演会・技術講習会など(2012 年以降)

- ・動物実験代替法チャレンジコンテスト 2023、第 36 回大会時に特別セッションを開催
- ・講演会「動物実験代替法: 基礎から応用、各業界の新たな挑戦」、2023 年 8 月 3 日(Web)
- ・試験法に関する技術セミナー「皮膚感作性試験代替法 ADRA」、2023 年 1 月 19, 20 日(神奈川)
- ・動物実験代替法チャレンジコンテスト 2022、第 35 回大会時に特別セッションを開催
- ・講演会「新しい挑戦へ向かう代替法の現在地—最新動向の理解—」、2022 年 8 月 25 日(Web)
- ・第三回出前講義「安全性の確認方法について」、2021 年 2 月 19 日(山口県立萩商工高等学校)
- ・第二回出前講義「生命医薬化学で学ぶこと」、2021 年 1 月 14 日(崇城大学)
- ・第一回出前講義「幹細胞をはじめとする先進的な細胞培養を用いる人体影響の予測」、2020 年 7 月 3 日(Web)
- ・試験法に関する講演会「代替法を正しく、有効に使う為に!」、2019 年 9 月 6 日(東京)
- ・試験法に関する技術セミナー「h-CLAT 試験(OECD ガイドライン No. 442E)」、2018 年 9 月 14, 15 日(神奈川)
- ・技術講演会「毒物劇物の判定にどう代替法を用いるか」、2018 年 8 月 2 日(東京)
- ・試験法に関する技術セミナー「STE 試験(OECD ガイドライン No. 491)」、2017 年 11 月 10, 11 日(神奈川)
- ・第 8 回動物実験代替法チャレンジコンテスト、第 27 回大会時に特別セッションを開催
- ・ワークショップ「日本発の動物実験代替法の現状」、2014 年 8 月 1 日(東京)
- ・第 7 回動物実験代替法チャレンジコンテスト、第 26 回大会時に特別セッションを開催
- ・JaCVAM・JSAAE 合同ワークショップ「皮膚感作性における Adverse Outcome Pathways (AOP、有害転帰経路)」、2012 年 9 月 13 日(京都)
- ・第 6 回動物実験代替法チャレンジコンテスト、第 25 回大会時に特別セッションを開催

●学会誌 AATEX (Alternatives for Animal Testing and Experimentation)および論文賞

本学会の英文学術誌である AATEX は、1990 年に第 1 巻が発行され、2021 年度に第 26 巻を数えるまでになっています。この間、わが国の研究者の研究成果およびわが国で独自に進められてきた新規代替法のバリデーション研究体系的成果などの海外発信に役だってきました。また、2007 年に開催された WC6 のプロシーディングも特別号として出版いたしました。さらに毎年、前年に掲載された論文から特に優れたものに対して、優秀論文賞を授与しています。現在、J-Stage で電子ジャーナルの利用が可能となっています。

(<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/aatex>)

●研究助成金

株式会社マンダムさまにご支援いただき、「マンダム動物実験代替法国際研究助成金」を公募しております(1 件あたり 50 万円～200 万円、総額 300 万円/年間)。国公立私立大学、国立または非営利事業財団等の研究機関において、動物実験代替法に関する研究(研究分野は問わない)に従事する研究者(日本動物実験代替法学会会員であること/外国籍者は免除)で、アジアを中心とした全世界の研究者が対象となっております。

また、日本化粧品工業連合会さまにご支援いただき、「化粧品等の安全性確保を目的とした NGRA (Next generation risk assessment)に関する研究助成金」を公募しております(総額 200 万円)。

●顕彰事業

動物実験の 3Rs に関する優れた功績を残した本学会会員に対し、Reduction、Refinement 及び Replacement それぞれの分野で「学会賞」として表彰しています。また、日化協 LRI での若手中堅研究者奨励の一環として、本学会に「日化協 LRI 賞」が設けられております。この賞では、化学物質がヒトの健康や環境に与える影響に関する動物実験代替法の分野で、学会誌 AATEX を含めた国内外の学術誌に発表した研究に対し、完成度及び実用化後のインパクト等を考慮して選考を行います。45 歳以下の 3 年以上継続している本学会会員が対象となっており、受賞者には大会での表彰と副賞(30 万円)贈呈を行います。

●国際会議等への渡航助成

国際会議等での発表奨励のために、会員への渡航助成(15 万円/人程度)を継続的に実施しています。

●Asian Congress の開催状況

- ・第 1 回会議: 第 29 回大会と共同開催、2016 年 11 月 15～18 日、唐津市民ホール(佐賀)及び九州大学(福岡)
アジアにおける 3Rs 研究、適応促進に関するアジア独自の大会として開催
- ・第 2 回会議: 広州(中国、2018 年 10 月)
- ・第 3 回会議: 済州島(韓国、2022 年 12 月)

●国際動物実験代替法会議(WC)の開催状況

- | | |
|----------------------------------|-------------------------------|
| ・第 12 回: ナイアガラ・フォールズ(カナダ、2023 年) | ・第 11 回: マーストリヒト(オランダ、2021 年) |
| ・第 10 回: シアトル(米国、2017 年) | ・第 9 回: プラハ(チェコ、2014 年) |
| ・第 8 回: モントリオール(カナダ、2011 年) | ・第 7 回: ローマ(イタリア、2009 年) |
| ・第 6 回: 東京(日本、2007 年) | ・第 5 回: ベルリン(ドイツ、2005 年) |
| ・第 4 回: ニューオーリンズ(米国、2002 年) | ・第 3 回: ボローニャ(イタリア、1999 年) |
| ・第 2 回: ユトレヒト(オランダ、1996 年) | ・第 1 回: ボルチモア(米国、1993 年) |

入会のメリット

1. 定期刊行の一般社団法人日本動物実験代替法学会英文機関誌「AATEX」が配布されます。
2. 動物実験代替法に関連した最新のメールニュースが配信されます(年間 50 通程度)。
3. 大会・講演会・技術講習会等へ会員として参加できます(多くの場合割引料金となります)。
4. 一般社団法人日本動物実験代替法学会の研究助成・国際会議の渡航助成をうけるには、会員であることが必要です。
5. 学会賞・論文賞等の候補となるためには、会員であることが必要です。
6. 会員限定の情報が記載されている会員ページにアクセス可能です。

事務局連絡先

〒112-0012 東京都文京区大塚 5-3-13 一般社団法人 学会支援機構内

TEL: 03-5981-6011、Fax: 03-5981-6012、E-mail: jsaae@asas-mail.jp